

《Bicycle Glance Meeting》

自転車目線で自転車文化の未来を考えよう！

Let's think about the future of the bicycle culture in a bicycle glance!

Course Create+転遊研

工事中 ブームから文化へ！ Bike is Good!

「SBAA プラス」と「SBF30th Anniversary」とのコラボ企画の提案

レジャーブームを背景にした昭和30年代の第一次サイクリングブームから、京都議定書を契機に始まったとされる平成のエコ系自転車ブームまで、幾度もブームは繰り返されています。

その都度、ランドナーや輪行車、ファニーバイク、マウンテンバイク、小径車、クロスバイク、ロードバイクと、車種(ハード)が先行する形で進むため、自転車走行環境整備を訴えるところには収束しています。

ソフトも同様に、ツーリングにしても、レースにしても、その都度ハードに対して乗る場所の提供を目的にイベントが実施されますが、欧米のようなスポーツサイクリングに至る手前で停滞するのが常です。

自転車には日常利用とスポーツ利用の二面性と、十人百色の利用目的があります。ブームから文化を目指すなら、自転車多様性の分析や自転車ソフトの充実が必要条件で、これは登頂ルートのひとつの提案です。



企画提案第二稿



- ブームでは語れないテーマ……………①
- JCAとJCFの共同作業……………②
- SBAAプラスでソフトも提供……………③
- バイシクルグランスマーケティングの提案……………④
- 「プレシーズン」から「バージョン1」へ……………⑤
- 「バージョン1」から「バージョン2へ」……………⑥
- ご協力のお願い……………⑦



ブームでは語れないテーマ



工事中

繰り返される自転車ブームは、常に車種(ハード)が先行する形で進むため、自転車走行環境整備の必要性を訴える頃には収束しています。

それはある意味仕方ないことです。

何故なら、自転車に関する省庁が多岐に渡るため、自転車の多様性を論議するに至っていないからです。

それは非常に残念なことです、
たかが自転車、されど自転車、自転車は自転車です。

確かに「自転車文化」は、自転車業界だけでは語れないテーマかも知れません。
それでも自転車目線で、見え辛い日本の実情に立ち向かうことは可能だと思います。

自転車には、日常利用とスポーツ利用という二面性があります。
それは幸いなことだと思います。

ハードやソフトだけでなく、インフラやハートの問題も含め、ユーザーに手渡す時点で問題提起をする方法があるからです。

春需でソフトを！・・・ 春需に合わせてユーザーに「自転車の乗り方や楽しみ方」を伝えること！

800万台とも言われる日本の自転車販売台数の大半が売れる「春需」に合わせてソフトを提供出来れば理想的です。
しかし、レース、ツーリング、スクールを、日本全国機会均等に充実させないと効果はありません！



JCAとJCFの共同作業



自転車の良さや普遍性は誰もが認めるところです。

但し、日常利用でもスポーツ利用でも十人百色の利用目的があり、ハード、ソフト、インフラ、ハードと、自転車の多様性を探究しなければ自転車文化の頂きに辿り着けません。また、リアルロードレースの実施を含む自転車ソフトの充実から目指すルートもありますが、どれも自転車関係者だけでは解決できない課題を多く抱えています。

そう言った自転車走行環境整備には、ツーリング、レース、イベントの連携に加え、日常利用者の共感も得なければ先に進めません。

人と大地の間に在る自転車。人の力を増幅するカラクリはエネルギー消費も加速するため、空気抵抗や水分補給など、他のジャンルに先駆けて課題としてきました。

つまり「自転車目線」とは、行動範囲の拡大で、水や空気や平和にも敏感になるということです。その意味で増幅率の大きいスポーツ車には、走行マナーの模範行動が求められます。

しかし、十人百色の利用者に訴えるのは至難の業です。

「レース+ツーリング+スクール」を併催するバランスの取れた総合イベントを各地で実施するのはどうでしょう？

サイクリングネットワーク・・・「サイクリング」とは、レースを含むスポーツサイクリング全般のこと！

しかし日本では、レースは競技、サイクリングは自転車旅と別物のように語られ、ネットワーク機能を有していません。そのため「繰り返される自転車ブーム」の遠因になっていると思われま

※JCFへの提案/MTB6時間耐久レース・・・メインレースは自転車競技連盟公認のトーナメント大会にしなければ意味がありません。地区大会は準公認としても、ブロックや決勝は、公正性の保てる計測システムやレギュレーションを導入し、スポンサー獲得も目指します。そのアイデアとして、予選ステージ4時間+決勝ステージ2時間の6時間耐久レース(仮称・オンザシックス)を提案します。

※JCAへの提案/3種のマップリーディング・・・ツーリングメニューは欧米で認知されているツーリングコンペティションを提案します。中上級者向けに街道を走る「ブルベ」や山道もルートにする「MTBラリーレイド」を、初心者向けに町の中をエリアにした「THT26◆自転車さんぽ」を提案します。これらは一般道の適性利用のため、走行環境整備に向け日常利用者の共感を得られると考えます。



SBAAプラスでソフトも売ろう！



ショップの役割はより良い自転車を売ることと、より良いメンテナンスを行うことです。
 今回そこに古くて新しい考え、春需でソフトを提供できるよう、不可能と思われる自転車ソフトの機会均等に挑みます。
 さらに、通販などの販売チャンネルの問題もあり、いきなり完成形を求めるには無理があることも承知です。

そこで過去の経験から、MTB6時間耐久レースと3種のマップリーディングを組み合わせた「バイシクルグランスマーケティング」を提案し、
 自転車ソフトの機会均等のための人材育成と情報共有を目的としたサイクリングネットワークの必要性を改めて訴えます。

何故、MTB6時間耐久レースなのか？

MTBブーム時の実績もあり、より多くの場所で開催が可能で、ショップやサイクリングクラブが主管できる内容だからです。
 駅伝的なチーム対抗は、専用計測システム導入で、日本発世界基準の感動ゲームにも成り得ます。

何故、3種のマップリーディングなのか？

一般道の適正利用の範囲で先達が設定したルートを、走り出したら自己責任として行うため、
 街道(スポーツ車)、山道(MTB)、町の中(一般車)と3種類の“道”で実施することが可能だからです。
 そして、自転車目線で他者との交通環境をバランス良く考えることができるからです。

ヨーロッパ型サイクリングクラブ・・・ ショップ・ユーザー・地域が三位一体となった、スクールからレースまで、様々な自転車ソフトを守備範囲とする地域貢献型サイクリングクラブ。スポーツサイクリングでは、子供の成長に合ったサイズを揃え年代別スキルアップスクールを行い、日常利用では、ルール・マナーの啓蒙活動や初心者対象サイクリングや自転車走行環境メンテナンスも行う。

奥座敷型と地産地消型・・・ 自転車は自由な移動の道具です。そのため、市街地や郊外を問わず自由に楽しめるのが魅力です。もちろん個人でも楽しめますが、走行環境や街道風景は積極的にメンテナンスする必要があります。サイクリング企画は車種と目的を掛け合わせると無限ですが、地元を楽しむか遠征先を楽しむかに大別できます。

つまり、ヨーロッパ型サイクリングクラブ同士の交流が、自転車文化そのものと考えます。

※過去の経験・・・ 中級者・上級者向けのイベントを提案する中で、日常利用との接点の必要性を感じ、シマノバイカーズやサイクルエイドジャパンに係ることで、「自転車走行環境整備」や「自転車ソフトの標準化」という言葉に出会いました。これらの課題をクリアするには「春需でソフトを！」を取りまとめられる“レベル”のネットワークが必要十分条件と考えます。



バイシクルグランスマーティングの提案



レース+ツーリング型MTB総合イベント「シマノバイカーズフェスティバル」の30周年記念企画を考える中で、「MTBの山道走行」や「スタッフの育成」など、単独イベントでは解決不可能な課題が浮き彫りに！
その課題解決には自転車市民権(≒自転車文化)の獲得がキーワードで、
30周年企画を呼び水に、イベント連携や実証実験を段階的に行う下記三本柱を提案します。

	シマノバイカーズフェスティバル (30周年に向けイベント連携を模索)	バイシクルグランスマーティング (JCA+JCFの共同作業)	ヨーロッパ型サイクリングクラブの実証実験 (SBAAプラスでソフトも提供)
2015年	#25●7月25-26日 ※耐久レース地区代表参加費無料招待	《アイドリング2015・・・SBF2015に合わせて呼び掛け》 【◎プレシーズン2016企画調整/年内に】 【◎E型CCの企画調整/年内に】 【◎Ver.1#2017 企画調整/翌年3月までに】	立川(立川競輪場)/甲信(境川競技場) 奈良(奈良競輪場)/山口(防府競輪場)
2016年	#26●7月00-00日 ※地区予選として実施(4時間耐久)	《プレシーズン2016/春～秋開催》 ★1月:概要発表⇒3月:セレモニー⇒3～7月:地区大会(会場数任意)⇒10月:決勝大会(関東周辺) 【◎Ver.1#2018 企画調整/翌年3月までに】	立川プラン ・・・たちかわ創造舎のサイクルステーションを活用して、当企画全体の事務局の設置を検討！(サイクリストライセンス、スタッフスクール)
2017年	#27●7月00-00日 ※ブロック大会として実施(6時間耐久)	《Ver.1#2017/秋～秋開催》 ★前年7月:SBFで概要発表⇒前年秋～初夏:地区大会(会場数任意)⇒7月～8月:ブロック大会(2～4会場)⇒10月:決勝大会(関東周辺)	甲信プラン ・・・諏訪、富士見、甲府、富士五湖を中心に奥座敷型のサイクリングフィールドを整備する。(MTBリパティフィールド、甲信ブルー)
2018年	#28●7月00-00日 ※ブロック大会として実施(6時間耐久)	《Ver.1#2018/秋～秋開催》 ★前年7月:ブロック大会で概要発表⇒前年秋～初夏:地区大会(会場数任意)⇒7月～8月:ブロック大会(4～8会場)⇒10月:決勝大会(関西周辺) 【◎Ver.2#2019～2020 企画調整/10月までに】	奈良プラン ・・・奈良県は既にサイクリング環境整備を進めており、さらに連携を深めて、関西圏の拠点とする。(関西ディアゴナール)
2019年	#29●7月00-00日 ※2年跨ぎ企画の地区予選として実施	《Ver.2#2019～2020/春夏2年跨ぎ開催》 ★18年12月:概要発表⇒19年春～20年冬:地区大会(47都道府県)⇒20年春～初夏:ブロック大会(8会場)⇒7月:決勝大会(SBF30th Anniversary) 【◎Ver.2の継続開催検討/3月までに】	山ロプラン ・・・維新150周年企画を契機に地産地消型組織を立ち上げ、隣県と連動したモデルケースを実践。(THT26◆◆毛利チャレンジトーナメント)
2020年	#30周年記念●7月00-00日 ※2年跨ぎ企画の決勝大会として実施		2020年に関係省庁も含めた完成形を目指すのではなく、次世代への繋ぎ役として、三位一体型サイクリングクラブの可能性を探る！

シマノバイカーズ型総合イベントのノウハウをJCA・JCF・SBAAで共有し、メーカー冠イベントに還元。そして、E型サイクリングクラブの趣旨に賛同する仲間を探し、サイクリングネットワークのベースを作る！
その趣旨説明のための草の根活動的現場ミーティングなので、植物が育つ地球をイメージしたネーミングを考えました。



「プレシーズン」から「バージョン1」へ



2015年
前半

アイドリング2015

★シマノバイカーズフェスティバル2015(SBF)の耐久レースへ地区代表参加費無料招待として、各地の既存のMTB耐久レースやXCレースの主催者にアプローチしつつ、メーカーや関係者に企画趣旨説明を行います。

2015年
後半

プレシーズン2016企画調整

◎SBF2016を地区大会のひとつに据える「プレシーズン」の企画調整を年内に行い、年明けに概要発表を行う。プレシーズンの目的は、「イベント連携」と「MTB6時間耐久+3種のマップリーディング」の実験実施のため、任意耐久レースの地区大会を4~8会場で連携実施し、2日間開催の決勝大会が具体化できるよう調整を行います。

2015年
後半

ヨーロッパ型サイクリングクラブ実証実験の企画調整

◎「立川プラン/スタッフスクール」「甲信プラン/MTBフィールド」「奈良プラン/ナショナルブルベ」「山口プラン/自転車さんぽ」と特徴を持たせた4エリアを想定しています。但し、競技場を絡めた「ユーザー+ショップ+地域」の三位一体型サイクリングクラブは共通しており、SBAAプラスショップがリードできるよう企画調整をします。 **【別途企画提案書作成】**

2015年
後半

Ver.1#2017 企画調整

◎地区大会~ブロック大会~決勝大会の流れを作る目的で企画調整をします。7月のSBFをブロック大会のひとつにするため、前年秋から地区大会を開始します。地区大会は任意耐久レース、ブロック大会は「任意耐久レース+3種のマップリーディング」が必須で、決勝大会は2日間日程で「MTB6時間耐久+3種のマップリーディング」で行いたいと思います。

2016年
春~秋

プレシーズン2016実施概要(案)/春~秋開催

★1月:概要発表(自転車協会新年交歓会) ⇒ 3月:セレモニー(立川プラン内企画) ⇒ 3~7月:地区大会(会場数任意/候補:3月ゴールドカップ・愛知/4月吉備高原MTBフェスタ・岡山/4月MTBフェスティバル緑山・神奈川/5月まどかカップ・山形/5月アキグリーンカップ・長野/6月abcカップ・千葉/7月汗々フェスタ・山口/7月シマノバイカーズ・長野/7月タイオガカップ・滋賀/他・別途リストアップ) ⇒ 10月:決勝大会(関東周辺/第一候補:マイティデューロMTB24時間耐久レース・長野県小海町・松原湖高原AC)



「バージョン1」から「バージョン2」へ



Ver.1#2018 企画調整

◎丸一年を活用した「地区大会(任意)～ブロック大会(2日間)～決勝大会(2日間)」の流れを作ること、「春需でソフトを！」に結びつけるようブロック大会での出張セミナー開催を視野に企画調整をします。出張セミナーは「三位一体型サイクリングクラブ」の勉強会のことで、実証実験4エリアと導入希望のエリアを対象に実施し、少しでも自転車ソフトの機会均等の実現に近づけます。

2016年後半
～
2017年前半

Ver.1#2017 実施概要(案)／秋～秋開催

★2016年7月:SBFで概要発表 ⇒ 2016年秋～初夏:地区大会(会場数任意/別途リストアップ/10～20会場) ⇒ 7月～8月:ブロック大会(2～4会場/長野、宮城、奈良、福岡) ⇒ 10月:決勝大会(関東周辺/第一候補:長野県小海町・小海リゾートシティRE-EX/第二候補:山梨県富士河口湖町・本栖湖キャンプ場)

2016年秋
～
2017年秋

Ver.1#2018 実施概要(案)／秋～秋開催

★2017年7月:ブロック大会で概要発表 ⇒ 2017年秋～初夏:地区大会(会場数任意/20～30会場) ⇒ 7月～8月:ブロック大会(4～8会場/北海道、宮城、栃木、長野、奈良、島根、徳島、福岡) ⇒ 10月:決勝大会(関西周辺/候補未定)

2017年秋
～
2018年秋

Ver.2#2019～2020 企画調整

◎地区大会(47都道府県・準公認)～ブロック大会(メーカー冠8会場)～決勝大会(SBF30thAnniversary)という目標を立てて企画調整を行います。地区大会も「レース+ツーリング」の形式を取り、競技連盟とサイクリング協会が連携して運営を行い、ブロック大会は冠スポンサーを募り、決勝大会は自転車協会共催とします。 【SBF30thは拡大企画を検討?】

2018年
10月までに!

Ver.2#2019～2020 実施概要(案)／春～冬～夏2年跨ぎ開催

★2018年12月:概要発表 ⇒ 2019年春～2020年冬:地区大会(47都道府県) ⇒ 2020年春～初夏:ブロック大会(8～10会場) ⇒ 7月:決勝大会(SBF30th Anniversary)

2019年春
～
2020年夏

Ver.2 継続条件・・・◎「春需でソフトを！」を取りまとめられる“レベル”のネットワークが見えたか？



ご協力のお願い



自転車文化の頂きに登るには「自転車多様性探求ルート」と「自転車ソフト充実ルート」があります。
「バイシクルグランスマーケティング」は、その2つを足して2で割った『秘ルート』です。

秘ルート「バイシクルグランスマーケティング」は、
「レース+ツーリング」のシマノバイカーズ型総合イベントに、自転車目線の運営を加味した発展形です。
そのノウハウを共有し広め、人材育成をすることで、自転車ソフトの機会均等を実現できると考えます。

三位一体型サイクリングクラブで各地の運営母体を整備し、定期的なイベント開催で自転車ソフトの標準化を目指します
そして、SBAAプラスショップで、春需でソフトを提供するためのサイクリングネットワークのベースを作るものです。

つきましては、「プレシーズン2016」に向け下記項目にて、各方面のご理解ご協力を賜りたくご案内申し上げます次第です。

— 記 —

- 一、大会主催者様・・・ 将来的な地方予選を睨んだ情報交換を目的に、1年以内に実施の大会から代表チーム派遣をお願いします。尚エントリーフィー無料招待とします。
- 一、サイクリングクラブ主宰者様・・・ 3種のマップリーディングの運営や、E型サイクリングクラブに興味のある団体や個人からのご連絡をお待ちしています。
- 一、メーカー担当者様・・・ この秘ルート全般にご理解ご協力をお願いします。プレシーズンに当たっては景品協力やブロック大会サポートをお願いします。
- 一、関連団体担当者様・・・ 秘ルートはアタックキャンプまでの補給ルートです。山頂アタックは先になりますが、後援以上のバックアップをお願いします。
- 一、運営ノウハウ共同開発希望者様・・・ 耐久レースの計測システムやツーリングコンペティションの集計システム等の開発協力をお願いします。

※「Ver.1」以降は、プレシーズンの企画調整の感触を見ながら、新たなタスクフォースを立ち上げたいと考えています。

2015年5月30日

「SBAAプラス」および「シマノバイカーズフェスティバル30周年記念企画」の為の自転車走行環境整備の呼びかけ人／石丸英明

★主な企画相談先：日本自転車協会、日本サイクリング協会、自転車普及協会、株式会社シマノ、および自転車メーカー